

2013年3月28日(木)

「理解」→「定着」→「応用」の「学習の3段階理論」で学力を飛躍的に向上させよう

開倫塾

塾長 林 明夫

春期講習中に、効果の上がる学習方法を Q and A の形で少しずつお伝えします。

Q 1 : 前は、学習の第1段階である「理解」の最後、「予習」のお話で終わりましたね。もう一度お伺いします。「予習」は何のためにするのですか。

A : (1) 「何がわからないかを予めはっきりさせて、明白にしてから授業に臨むために行うのが予習」だと私は考えます。「予習は、何がわからないかを予めはっきりさせて、明白にしてから授業に臨むために行うもの」です。

(2) では、どのようにすれば何がわからないかをはっきりさせ、明白にしてから授業に臨むことができるのか。まずは、授業が始まるまでにその日の授業範囲について教科書を一文字、一文字、一語一句ゆっくりと読むことです。そこに書いてある内容はどのようなことがよくわかる・「これはこのようなことなのか」とよく納得する・腑(ふ)に落ちるまで、つまりよく「理解」できるまで教科書をしっかりと読み込むことです。そして、どこがわからないかをはっきりさせることです。これが「予習」です。

(3) 教科書をゆっくりと読み込んでいて、わからないことば・語句が出てきたらどうするか。教科書をよく読み、特にわからないことば・語句のある文章の前や後の文章などをよく読み、その意味を推測することが大事です。推測が難しかったり、よくわからなかったりしたら、辞書を用いてそのことば・語句の意味を調べるのが「予習」では大切です。

(4) 辞書を用いて調べたこと、つまり、調べたことば・語句とその意味は「ノート」にしっかりと「メモ」をしておきましょうね。辞書で調べたことば・語句とその意味を「メモ」した「ノート」は、何回も、何十回も、何百回も読み直してしっかりと、そして正確に覚えてくださいね。辞書で調べたことば・語句とその意味は正確に言えて、書けるまでにしましょう。

(5) 「国語辞典」と「漢和辞典」、「古語辞典」は、すべての教科を「予習」するときにも机の上に置いてくださいね。英語を「予習」するときには「英和辞典」を頻繁(ひんぱん)に利用してくださいね。英語好きな人は、英語の意味がわかりやすい簡単な英語で説明してある「英英辞典」を書店で購入して、どんどん活用してくださいね。

(6) 私は、中学3年生の時に英語検定3級に合格して英語が大好きになりました。(私が中学生のころは、1学年の生徒が440名もいたのですが、英語検定3級に合格するのは中学2年生が1人、3年生が5~6人でしたので、中学校の校長先生から全校生徒の前で表彰されたほどでした。今では小学生・中学生が英語検定3級にどんどん合格するので素晴らしいなど、私は皆様のことをいつも尊敬しています。)英語検定3級に合格して以来、英語が大好きになり、書店で一番簡単な「英英辞典」を買いました。そして、日本語で英語の意味が書いてある「英和辞典」といっしょに2冊の英語の辞書をよく読むようになり、英語を学習するこ

とがさらに好きになりました。高校に入ると、「英英辞典」をもう 1 冊買い、時間があれば英語ばかり「予習」するようになってしまったほどです。日本語で意味のよくわかっている英語を調べ、ゆっくりと読んでみると興味が尽きない、それほど面白(おもしろ)いのが「英英辞典」です。

(7) 古文を「予習」するときには、「古語辞典」があるととても便利です。私は小西甚一(こにしじんいち)先生という超有名な先生が一人で書き上げた「基本古語辞典」(大修館刊)が大好きでした。ボロボロになるまで使っていました。高校生になる前、つまり中学生の時から小西甚一先生の「基本古語辞典」をお使いになることを私はお勧めします。書店で見つからなかったら、書店に注文して買ってくださいね。

*ちなみに、小西甚一先生の「古文の読解」(ちくま学芸文庫)は「名著」です。古文の参考書の中では、読んでいて一番興味が尽きないものです。国語好きの中学生なら、ゆっくりと読めば十分に「理解」できます。私は、小西甚一先生の「基本古語辞典」と「古文の読解」で国語、特に古文を学習することが大好きになりました。この 2 冊は長い間絶版、つまり出版されていなかったのですが、この数年の間に再刊されたのでうれしく思います。(私も再刊のために随分と運動しました。)

Q 2 : 「予習」のお話が、辞書や参考書のお話になってしまいましたね。「予習」をするときには参考書が必要なのですか。

- A : (1) 私は、小学生・中学生の皆様は学年別の説明の丁寧なわかりやすい参考書を教科ごと買い、わからないことがあったら辞書と併用してどんどん調べることをお勧めします。
- (2) 参考書を 1 ページから最後のページまで読み切ろうとする人もいますが、その教科が大好きで、よほど得意な場合を除(のぞ)いては、予習の段階で 1 ページから最後のページまでを学習し終えるのは難しいと私は考えます。(その学年の内容を一度学習し終えた後なら、参考書の 1 ページから最後のページまで 1 冊まるごと一気に学習することはいくらかでも可能です。また、素晴らしい復習になります。チャレンジしてくださいね。)
- (3) 参考書は「予習」をしていてよくわからないところを調べるために用いる、これがポイントです。(もちろん、授業が終わったらその内容を参考書で確認することも大切な学習です。一番よいのは、その教科を学習するときには、教科書と参考書を今までに学習したページまで一通り読んでから、新しい内容の「予習」を行うことです。)
- (4) 新しい内容を学習するときには、教科書と参考書の初め、つまり 1 ページから今までに学習した内容のページまでを一通り読んでから学習することが最も効果的な学習方法です。
- (5) 計算や問題があったら、必ず問題文を「ノート」に写した上で解くことも大切な「予習」です。
- (6) よくわからないことがあれば、自分なりのよくわからないマーク(印)をつけておくこと、よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと、この「予習」の方法は高校だけでなく、大学や大学院に進学してからも、社会に出てからも役に立ちます。留学をしても役に立ちます。
- (7) 皆様は、今からこの「学習の仕方」を身に付けることにチャレンジして学力を向上させてくださいね。

今日はこの辺で。では、また。